

AY、1歳1ヶ月女児、脳性麻痺にて当院follow-up中の児であったが初回喘鳴を認め、入院を必要とした。IgEは500 IU/mlであった。

TN、6ヶ月男児、初回喘鳴にて入院となった。IgEは222 IU/m。IgE-CAP-RASTでダニはクラス0だった。

3人全員が初回喘鳴であり、2番目の症例については現在も喘鳴を繰り返しており、気管支喘息として当院にてフォローアップ中である。

D. 考察

冬季以外でもRSV感染は認められた。アレルギーの素因を持たないものでも、初回喘鳴を引き起こすウイルスとして非常に重要であると考えられる。アレルギー素因を持つ児の初回喘鳴をひき起こすこともあり、また喘息と診断されている児でも、喘鳴の原因としてRSVを考慮に入れる必要はあると考えられる。臨床症状としては冬季と同様に、比較的年少者に多く、RSウイルス陽性の方が陰性者に比し重症度

が高く、より高度の治療を必要とした症例が多い傾向にある。冬季に比し症例数が減少するが、臨床像としては冬季夏期とあまり差がないと考えられた。

E. 結論

冬季以外でもRSVは存在している。とくに初回喘鳴についてはRSVを十分に考慮にいれ診断することが必要である。早期にRSVを診断することで、臨床症状の重症化を予測し、治療にあたっていくことができると考えられる。

F. 健康棄権情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権・登録状況

なし

<表1>

	RSV陽性	RSV陰性
症例数	11	51
年齢(平均)	1歳5ヶ月	1歳9ヶ月
(範囲)	3ヶ月～6歳10ヶ月	4ヶ月～13歳
IgE (IU/m)	187±283.1	259±639.7
初回喘鳴	7(63%)	4(15%)
発熱	3(27%)	17(33%)
治療		
酸素	5(45%)	8(16%)
イソプロテレノール持続吸入	3(27%)	5(10%)
ステロイド静注	3(27%)	6(12%)